

S. M 様 33 歳 女性 入院期間 2016 年 4 月 4 日～6 月 16 日

ママさん患者さんもきれいに

乳幼児期は耳切れ湿疹程度であったが、小学校高学年でプールの塩素によって皮膚炎が生じたのをきっかけとして、四肢屈曲部、顔にアトピー性皮膚炎が生じるようになり、高校卒業時までステロイド外用を使用していた。

大学 1 年時に民間入浴療法で脱ステロイドを試みたが、全身性に悪化。微熱を伴う全身性の炎症が生じたため大学病院に入院し、ステロイド療法を再開した。退院後もステロイド外用を 11 年間使用していたが、2 年前から効果が低下。Medium タイプから Very Strong タイプに増強されたが、抑制できなくなってきた。

先行きに不安を感じたため脱ステロイドを行い、漢方→電気治療→吸引治療→温泉の元を使用した入浴治療を行った。

温泉入浴は効果があり、1 年間はステロイドを使用せず普通の生活ができた。

入院の 5 ヶ月前、市販サプリメントを内服後から悪化。3 ヶ月前から再度温泉入浴を試みたが、今度は逆に全身性に悪化。

全身性のアトピー性皮膚炎と悪寒が生じるようになり、3 才と 5 才のお子さんを持つママさんであったが、お婆ちゃんに面倒を見てもらって、当院にて 2 ヶ月半の入院治療を行った。

Th2 タイプの炎症マーカー TARC は 29061→3132→676 自覚症状を表すスコア POEM は 21→15→4 に一気に低下している。

衛生仮説（衛生過ぎる生活環境により、大切な免疫形成時期である乳児期に多様な微生物による免疫形成ができず、アレルギー体質を作ったというアトピーの原因学説）が言うように、アトピー性皮膚炎の患者さんは免疫能力がいびつであり、黄色ブ菌や酵母様真菌であるマラセチア等の病原微生物の除去がうまくできません。そのため、患者さんの皮膚は病原性菌で一杯です。特に黄色ブ菌は多くの強い毒素を産生し、アトピー性皮膚炎を増悪させるスーパー抗原として働きます

当院で行われる BST はバイオの力で病原性菌を抑制し、Th2 優位のアレルギー性免疫を是正します。

この症例では、黄色ブ菌の全身性の感染が急性期のアトピー性皮膚炎を引き起こしており、BST 浴水内の有効細菌が病原菌を抑制し、TARC に代表される Th2 優位のアトピー性皮膚炎を改善させます。これらの機序の詳細は論文上で明確に提示したいと考えています。

アメリカのアトピー性皮膚炎治療ガイドラインで紹介されている塩素剤入浴（ハイター入浴）による病原性菌抑制療法の有効性は、その後の追試でほぼ効果安全性が否定されています。この症例でも判るように、塩素の刺激によるアトピー性皮膚炎の増悪は、日常茶飯事でありナンセンスです。

温泉療法は効果が出る症例も散見されますが、機序の研究がなされず療法としては残念な状態です。

	基準値	4月5日	5月6日	6月2日
TARC	450 以下	29061	3132	676
LDH	120~245	455	317	210
IgE	170 以下	12845	16698	16237
好酸球	7%以下	8%	6%	8.0%
POEM(自覚症)	最重症者 20~28	21	15	4



2016年4月5日



2016年6月2日



2016年4月5日



2016年6月2日

